



岷江入楚

椎本

才由十五

特別  
~ 12  
4604  
45



45  
7/2  
4604  
45



十年五月  
十八日  
惟木

女二歲

私以年並并花鳥錄臨三三三、以遠形りて十九歲と

小汀文庫

二月廿日比白鳥令三、玄泊、淑、

白鳥、一、淑、字、淑、行、事、

夕、力、在、在、所、給、物、事、

董、宰、中、將、系、所、送、事、

宮、中、官、吏、所、消、息、百、董、中、物、事、

白、文、見、給、三、三、三、事、

董、中、將、付、令、系、八、宮、合、物、事、

白、官、吏、消、息、於、宮、中、事、

中、君、書、以、送、事、

方、去、卿、言、系、所、送、事、

字、派、官、在、年、給、事、

于、秋、宰、相、中、任、中、御、言、事、

七、月、源、中、御、言、消、息、所、送、事、

宮、中、君、送、以、身、付、源、中、御、言、事、

中君大五、  
中君大三、  
作川卷、  
未初同時也

物有定矣

大如若川琴瑟也

源中納言進年君物記事

其夕以官常通事於中納言

當秋八官為以念仙梅何國與也

尸至女君進年同車

自念仙之時借死日八官極悲也

八月十日在十八官苑行車

源中納言明委以多野子新車

河河因也

九月旬官即乘道遠面也

白官進消息也官也 大如若書以送車中君不

不且白官又老御文也官也 其如也

源中改統源中納言云系官也

惟君御對面也 與老人物記事

源中納言對面白官之活物記字也惟君進年

官院惟君進年有極也

年官事

年官源中納言活字也

對面惟君之活字白官也

與宿直人活字也

廿三聚 中納言

春初自河國御件秋并嵐古官活字

苑此白文送消息也官也 中君也

其夕官常通事源中納言也

三条文燒之入及文梅六條院也

六月某日源中納言出官院自源子定存見惟君進年

年官事

推卒

花以并詞為卷右

可  
五りんけとこのら 柳のりとこひあ 子麻子奴子け  
秋 春名心并号く之董花二刀ノ春しり治年世三ノ冬  
中一の事し 花多思のあり用之 歳  
并 春心平一あり董花二ノましり治年世三冬三ノ冬人  
花 董十冬ノ春しり世也ノ冬也の冬みくしり十九ノ秋中  
細云み六斤り竹足竹川春と同時也

子すう江の才日ひかのかとよきあふの言とつとまありてあふ

極 宿歌をたしあふ

長谷寺車を並む勢巻

は 長谷寺車を並む勢巻

このまくらの世もやとりの

花南都下向くか宿歌を中宿をまほしん以年あふ

平尊院より御座る御事

秘 南都の年をとりし中やとりし御事と云ふ事

御事と云ふ春日祭の供りの中宿をせし

秘 御人の山は月をとりし里のあつまきと云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

御事と云ふ御事と云ふ御事

み所よりなをらをきくせとありり連しあす遠  
ツテカタ 遠方 遠近 ツテカタ 秘所方

花江東に在る秘所ノ別業字流より湯成ありと云々  
けふニありしありしなり字流院とありて字多て白  
朱存成とありて鎮ありて之義平流門ありて  
秘所と云へりしもの部より記云々ありて故に  
長雅信云ふ所ありしと云々四年十月に置國  
院と置をりて同四年字流の故よりむりし存  
字流院用白代の如て永永七年よりありて  
法華二時をゆきし也平末院とありて後  
年よりありしは昔よりありしと云々  
本所より置院用白してありしと云々  
と云々ありしなり 平末院よりありし  
秘所ノ義なりしと云々別業にありし  
と云々ありしなり 平末院よりありし  
川のありし平末院よりありし

秘所と云ふは此の事なり

秘所方自宮所下向山ありしと云々ありしなり

宮所守すなりしなり

秘所方自宮所下向山ありしと云々ありしなり

秘所中よりありしなり

秘所方あり

秘所と云ふは此の事なり

秘所方のありしなり

秘所のありしなり

秘所と云ふは此の事なり

秘所と云ふは此の事なり

秘所と云ふは此の事なり

秘所と云ふは此の事なり

秘所と云ふは此の事なり

秘所と云ふは此の事なり





あじのかもとこれいづこの  
河内路 一強ノかこ  
舞臺ノ笛ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

さいねの君乃れ新し  
秘 舞臺 舞のついで

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

ちの橋あれは舞のついで

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

秘 舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

舞臺ノ舞ノ多岐任ノ舞ハはるそ是柳木道ノ夜  
舞臺ノ舞ノ笛ノ人泣きとなくハ舞ノをさうすさう  
あつて

後まより葉一四多つれあり

山陽よ葉吹し〜念ふれと〜名布ら

秘傳のひ〜を〜し〜つ〜れと

葉 葉吹し〜葉と〜す〜葉と〜

葉 葉吹し〜葉と〜す〜葉と〜

官界下りありと

秘 白文以返るあり

秘 白文以返るあり

秘 白文以返るあり

中おはす〜あり

秘 葉

ありひよ〜あり

ありひよ〜あり

ありひよ〜あり

ありひよ〜あり

可 解 醉 樂 在 葉 子 いら〜と〜

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

可 水 采 臺 調 元 葉 何 道 道 与 れ 八 海 と 干

秘 花 多 後 花

秘 花 多 後 花

秘 花 多 後 花

道遠なるあるまはけありしは所無の夢ありし  
と名づくありし建の翌日夕に酔ふ事れはいと  
心ゆかりしとありしは酒酔ふ事れはいと  
あはれなるはかりしは

必  
父のゆくは海に宮の御  
少ありき事なほ  
井字流るる事

物けたりき字流るる事と白き酒の味も  
あはれなるはかりしは酒酔ふ事れはいと  
心ゆかりしとありしは酒酔ふ事れはいと  
あはれなるはかりしは

井  
井字流るる事  
午あはれに好しき事  
あはれなるはかりしは酒酔ふ事れはいと  
心ゆかりしとありしは酒酔ふ事れはいと  
あはれなるはかりしは

くは調をよみ宮の人世骨は片面とありしは  
て用合ふる物に遠屏風とありしは又いかりの屏風  
とありし物も車ありしは竹をよみ白く曝  
くらんらしとありしは  
秘記いかりやよしあり  
後りきりしは海に宮の御

いさ物とありしは

法義ありしは

くは調をよみ宮の人世骨は片面とありしは  
て用合ふる物に遠屏風とありしは又いかりの屏風  
とありし物も車ありしは竹をよみ白く曝  
くらんらしとありしは  
秘記いかりやよしあり  
後りきりしは海に宮の御

花梅人八景并七景双調律二平調双詞系ハ多ハを



村 娘君のあつちと越りくくろそにほつとほつとありて  
秋夜といふのむらりの一 秋木

昔とばかりしとやまらん  
川喜の昔よすまればとわたりて秋夜をよみし秋夜は  
あつち一この初春を履き世心同様に  
むらじのとりとせよむらじの世をむらじにあらはれ  
昔通初春をよみしとよまれば世をあらはれ  
白雲字派と秋をむらじの世をむらじにあらはれ

春のよまればの昔 せりやをよみし  
秋喜のよまればの昔 せりやをよみし  
美川喜のよまればの昔 せりやをよみし  
ハ見ぬとよまればの昔 せりやをよみし  
以よりいそぐるる  
美川喜のよまればの昔 せりやをよみし  
中喜よとせりやをよみしハ喜のよまればの昔 せりやをよみし

おんこいしとよまれば

井のよまればの昔

早下り一とよまればの昔 せりやをよみし

秋喜のよまればの昔

美川喜のよまればの昔 せりやをよみし

脚をよみし

井川喜のよまればの昔 せりやをよみし

白雲字派と

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

秘 河海川喜のよまればの昔 せりやをよみし

河海川喜のよまればの昔

まことの舞の種のはゆい

此のうまな草の種をわかれしとて  
お物とてしりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

井の物たる長七 此物たる種をわかれしとてまらぬ草の種をわかれし

お長とてしりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おさげしりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

このまらぬ草の種をわかれし

唐詩 和歌 詩割

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

おのまたりし作れしとてまらぬ草の種をわかれし

大君元女  
中君元女

いあきつるのり

秘  
あきつる

あきつるし物の領しつら斗わたりすまをさるぬん  
神けりあつるの末を懸るるなり

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん  
あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

秘  
あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

秘  
あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

秘  
あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

秘  
あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

あきつるしつら斗わたりすまをさるぬん

後よりしき押るれをも  
すまれやうきふよ

すれとせんしとめたるなりし  
物よりその中厨より

御供養のすよりおんなりしりしを

るけのしきをかきし  
ひまのりしものしきとて  
なまうねうらぐさ

秘自まあり

さるるよわかりしん家の中よりし  
秘ちがりきんかしくし海を右岸とてし  
秘菫草をのりてそのつりしきさうごりしりし

秘うれ秋中御へは花多年のあやむりしりし  
その秋とは白なき家路を告あふりし  
菫草はよりの秋とてその年の後のあはれ川よ今

の界をさるるをひりし  
その時とていふ

秘

けはなま縁えさるるを  
菫草をうらむにさきとて  
ふりしものよとてしりし  
今しりしりしりしりし  
らりしりしりしりし  
りしりしりしりし

秘 白きの家路より春遊ひありし  
菫草の字をよりの秋とてさ  
あはれ三年計をりし川  
いすもとて

け事の中御へは行川巻よ中御とて  
甲御とてありしりしりしりし

花菫の葉を文をさるる  
秘菫草の葉をさるる  
りしりしりしりし

并菫心の相中をさるる  
左原をさるるしりしりし

をさるるしりしりし  
秘御中をさるるしりしりし

めたる人さほあはれりし



秘井君愛 後

どうも思ひしりして

愛 七かきつらやうにそなたの喜ぶ事を知るは是れ妙に  
思ふものなりて久しき御心けを

七かきつらやうにそなたの喜ぶ事を知るは是れ妙に  
思ふものなりて久しき御心けを

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

一し 御心けを御心けに

秘 七かきつらやうにそなたの喜ぶ事を知るは是れ妙に  
思ふものなりて久しき御心けを

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 七かきつらやうにそなたの喜ぶ事を知るは是れ妙に  
思ふものなりて久しき御心けを

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

秘 ありとされ申御座りしと云々をすじの御心けに  
とくそなたの御心けを御心けに

有少地見れおもしろくつらき一山ゆめり地をゆり  
笑まらん親よるのよきて親よき先におつり  
下よすゆれしはあか子入るお月さる

けしらのせいで知よいらる

叔父、何あふ時ノ事やちりあふえ 并

くらうなるとしやるる方枝の月よ

秘の事とらえられしと事申す

九龍金屋使あ用之 室申し 合テカテトヨム

并 筆申し 九重 松葉申し 並

可 小字 新發日君之「少以九重 王逸云天門凡有九重

洛陽城固園門西向大道門の重也

白氏文集日君門の重也

秘とらくよいらあむらり

男さしとよなをさる

三つり

平よらうらひの重録をけしてあつら

平よらうらひの重録をけしてあつら

後日春に二とらくつらあつら  
秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

秘志よいあむらひの事

女宮有りては、あまの御魂の地なる  
并葉のうらみとあるすくし又ふりしりまて  
いささかおそろしと

秘系之地  
兼葉のうらみは、後葉の地なるすくし  
直ぐて海にたふさるすくしけり

兼葉のうらみは、管絃の音なるすくし  
いとあまの御魂の地なるすくし

兼葉のうらみは、世の事なるすくし  
私共の地なるすくし

兼葉のうらみは、多の事なるすくし  
ありの地なるすくし

兼葉のうらみは、いづれなるすくし  
秘の地なるすくし

兼葉のうらみは、傳傳の地なるすくし  
兼葉のうらみは、一七の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし  
又兼葉の地なるすくし

起而舞のうらみ

秘の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

兼葉のうらみは、何の地なるすくし

ふよしかしうかあゆむと

昔もわすれず今も中しけりて今も心ゆく  
みわすこいさしちかてえのねぬ

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと  
あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

昔は天をて年越七月當麻呂連子出雲回御見極祿左  
掃力二人相討立若衆足相驅別驅連之賜骨云磯衛其

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

昔は天をて年越七月當麻呂連子出雲回御見極祿左  
掃力二人相討立若衆足相驅別驅連之賜骨云磯衛其

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと

あかりありしうかあゆむと













類訓 孔子痛若く柳 其注上毛海りりり父絶切る時  
杜詩云誓宜切拭淚 其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

其注上毛海りりり父絶切る時  
其注上毛海りりり父絶切る時

世のちかたを介りけよ

美濃の地を常をなすけのりなれ井をれて

ちりしとを董の地

時りけよとを董の地

井つちの井のふあり 美濃の地

物にけよとを董の地

美濃の地のふありとを董の地

よれこの地を介りけよ

これよこの地を介りけよ

ふありの地を介りけよ

れとを董の地を介りけよ

ちけゆあを介りけよ

けの地を介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

神れこれとを董の地

けの地を介りけよ

美濃の地のふありとを董の地

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

れこれゆあを介りけよ

いささかのさしりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

思ひしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

いとむねくさるるを

白紙の文のまじり

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

井白紙のまじりしを

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを

秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを今と見れば

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを

秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを

秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを今と見れば

秘蔵のまじりしを 秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを

秘蔵のまじりしを

あつたのまじりしを

秘蔵のまじりしを

いそぐわりのまじし  
あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

いそぐわりのまじし  
あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

甲斐の山をめぐりて  
くちまのまじし

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

あはれあけぬ道に響くまねと自えのほほえみ

花のくさるんやうにわぬての  
秘すまへくの中悪の年記されとて 美

為運りにほつたふんとして

美の運とち悪中悪とてちりぬるを

中いといへるまにホリマシ

美の彼くうとてちりぬるを

川らんまのほつたふんとして

美の運とち悪中悪とてちりぬるを

美の子地人

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

美のわらわらちりぬるを

白紙

百死にたすよふとまなちひしきん

<sup>秘</sup> けりしりさひ

菴 蒲桐如<sup>つ</sup> 須磨<sup>ま</sup>まはあつらひの<sup>ら</sup> 家の<sup>な</sup>ふら<sup>ら</sup>なり

つらなかり

きつこあひ

飛ぶやうきと

このまをとりし

白きしらさの<sup>ら</sup> 雄老<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

ちげの<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

まけやうの<sup>ら</sup>

秘 くれ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

白き<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

まけあつら<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

白き<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

身<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

白<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

つれ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

つれ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

義 くれ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

義 くれ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

礼記喪大記 父母之喪居倚廬下<sup>ら</sup> 寢<sup>ら</sup> 苦<sup>ら</sup> 枕<sup>ら</sup> 白<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

いと<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>

外 秘 珠

秘 蕙之入身

弟のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

のまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身

毛のまじりたるおのれを昔のころのまじり

秘 蕙之入身



はらうしぬさうら

あまのらつてらすまじつたか

あまのらつてらす

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらす

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらす

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらす

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらす

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらすのちをききてあまのち

あまのらつてらす

大君のけつを道のちから

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

あまのらつてらす

ひさしあなまし  
秘蔵の心

老翁のこゝろ

十巻の老翁伝(五)のこゝろ

秘蔵の心

ありつゝあささし

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

秘蔵の心

井の明と在る交り世間

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

井の明と在る交り

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

秘 此の地は此の地なり

おのの守りごと  
秘董の文

いとまのけなりの心もいよにてしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり

又とまかれておのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり  
おのの守りごとしるはれり

これたまののま

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

おのの守りごとしるはれり

英石徳とらの山はよこりかんと忘りなす

ふききこみ  
おれうこさうし海に推さきとる

いづくおれは  
英信な久く  
うらまきとら  
ふと時を感まら

折きとれ味あを井よい  
引りのおよそれぬ  
秘意の申られ  
可なり此山の船客  
いづくはよつ  
と今らしと  
英家おる子

おれと若人の世

おれと若人の世  
おれと若人の世  
おれと若人の世

いよわくし  
白官好也  
おれと若人の世

おれと若人の世  
おれと若人の世  
おれと若人の世

おれと若人の世  
おれと若人の世  
おれと若人の世

とあるつゝよまされしおままりしとておけりたるは  
かゝりあるはけしめし  
きしこもせりてくまの後のこりしはる世  
おれこれより又おまのかきしこりられおまの  
おまのこりてけりおまのあはれし

とてしれはる

ふり年の事よめしるるを

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

世よありんるううとおまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

おまのあはれし

ほろろーばらばらーのほろろー  
ちろろーばら

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん

中書

秘

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

集

ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん  
ねん ねん ねん ねん ねん ねん

うやまのくそよしやうを御まへにまゝにけし  
白ひきまのきりて 右よよこ山六枚の巻きたまはるるに  
そよしはわかすもわかれしはとより 松葉ののよよま  
えりまし 今ふしやうを  
秘 弁をたし 今

中切云の巻をさう ヲキテ 年六より一を  
巻 年六 ヲキテ 年六より一を  
巻 年六 ヲキテ 年六より一を

あつたれん人なるあつたれん  
秘 け常中の志は切なり  
あ 右志心抄やを感し 今

秘 肝 腹志の調節は毎物思ふるものなり  
秘 肝 腹志の思ふなりこれよりあつた巻  
秘 肝 腹志の思ふなりこれよりあつた巻

宮のしらべり  
秘 肝 腹志

あつたれん人なるあつたれん  
あ 右志心抄やを感し 今

あつたれん人なるあつたれん  
あ 右志心抄やを感し 今

あつたれん人なるあつたれん  
あ 右志心抄やを感し 今

あつたれん人なるあつたれん  
あ 右志心抄やを感し 今



秘白宮

身薙ノ似

花折有り一以ひとと成

秘 在交遠を自くろりあり一たはよんはすと

~~~~~

薙ノ白宮にしろあり一わやよ自宮のせりありと

又いと病をこみん

井白宮ノ姓をよ

秘 ちり一ありよのありと

秘 ちよんんといふにまにたのあせい

井白宮薙をせありと

秘 進るはは有りかきうこせい

秘 薙んつれありはゆよ一うけぬのあとのあせい

とこのあせいといふにせしとありいせありと

秘 ちのあせい甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

秘 けせぬの甲れとせありと

あや甲と五れとを

何よりしあるよきこそ

云界のよききさのりて物志をさるるなりか  
大い人の志をけほけりよき人をもさるる  
秋風よきけをさるる申すし打するをさるる

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井



まゝ用控まゝうのぬり後又左志をいさかゝ  
中志をいさかゝ

比之りたるいはりつゝは

右句まの比あまの比よりハ後志下とせむつりや中志

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

陳一々のあわと

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは

比之りたるいはりつゝは



おしりしーい

秘 加まのまーい

あけのめらよのうせいの也

仙のこころのこころのこころ

花のこころは白く又赤くはとよのこころ

秘 櫻梅のこころ

のこころは白くは

秘 櫻梅のこころ

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

秘 加まのまーい

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

あけのめらよのうせいの也

秘 蕙の中 海すく 此危るし けりく 此のまじり  
をいふまじりしきまじりしきまじりしき

蕙の心

蕙人のまじりしきまじりしき

秘 并のまじりしきまじりしき

秘 并のまじりしきまじりしき

秘 并のまじりしきまじりしき

大なるまじりしきまじりしき

此危のまじりしきまじりしき

秘 蕙の木まじりしき

秘 蕙の木まじりしき

秘 蕙の木まじりしき

秘 蕙の木まじりしき

秘 蕙の木まじりしき

秘 蕙の木まじりしき

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

蕙の心

花とりのついで  
けしき 聖舞 精進

仲のまよひのうらさくをいふはまのふまのあまの

取よつてはうらさくをいふはまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

あまのふまのあまのふまのあまの

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花





何の事かおぼしき事ありしに  
秘 白雲の如く見えしに  
とて

白雲の如く見えしに  
くしに白雲の如く見えしに

秘 白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに

秘 白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに  
白雲の如く見えしに

白雲の如く見えしに





翡翠翠々たるくさおるれを みる候はなむとて

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ 翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ

翡翠翠々たるくさおるれ





